

日野市環境情報センター開設10周年を記念して

2015年7月10日発行

日野市環境情報センター(愛称:かわせみ館)が開設10周年を迎えました

日野市環境情報センター(愛称:かわせみ館)がこの7月で開設10周年を迎えました。開設以来10年間、環境情報センターを支えていただいた多くの皆様に心より御礼申し上げます。

日野市環境情報センター開設までの経緯をみますと、1995年に市民の直接請求により「日野市環境基本条例」が制定され、その第9条に基づき、1999年に公募市民(市民ワーキングチーム)と公募職員(庁内ワーキングチーム)の協働作業で策定された「日野市環境基本計画」の中で環境情報センターの設立が決定されました。これを受けて2005年1月に環境情報センター設立準備会が発足、そして同年7月に日野市の環境情報の発信拠点「日野市環境情報センター」が開設されました。愛称の「かわせみ館」は市民から公募、「市の鳥」でもあることから決まりました。

センターの主な業務は環境情報の収集・分析・発信、市民を対象とした環境セミナーの開催、児童の環境学習、環境問題の相談、市民環境団体の活動支援、施設の提供、大学や諸団体との連携、公共事業に伴う環境への影響評価などです。具体的には、「市民環境大学」や「みんなの環境セミナー」「小学校への環境学習出張講座」などの実施、「日野市環境白書」や「センター年報」の作成、「かわせみ館ニュース」の発行、「雑木林ボランティア講座」や「水辺の楽校」「ひの緑のトラスト」などの環境保全活動の支援、「環境フェア・環境情報センターブース」や「かわせみ館フェア」「生きものや植物などの写真展」といったイベント開催など活発に活動しています。

この10年間でセンターに来館された方々は延24,000人を超えました。同じく環境学習では子供を対象にした活動を約46,000人に、成人を対象とした活動を約6,600人に実施してきました。

これからも市民の皆さんに愛され、必要とされる「日野市環境情報センター」であり続けたいとセンター長以下スタッフ一同、願っています。

2017年には黒川清流公園にほど近い場所に建設される(仮称)東豊田複合施設の中に「新環境情報センター」がオープンする予定です。ご期待ください。

<年度別来館者数>

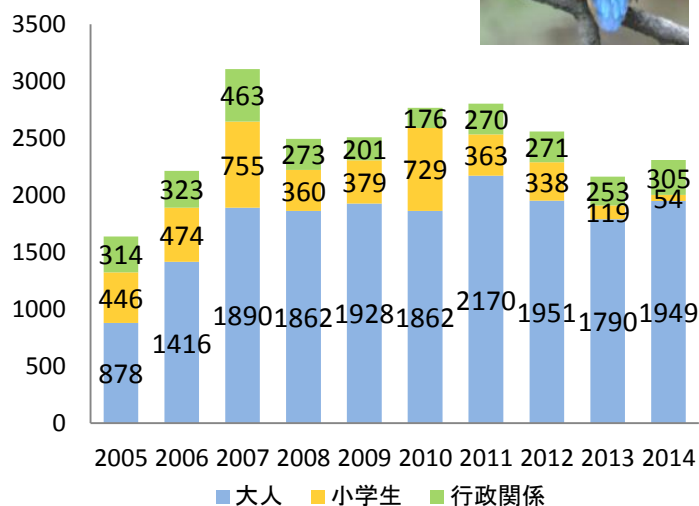
(人)

年度	大人	小学生	行政	合計
2005	878	446	314	1638
2006	1416	474	323	2213
2007	1890	755	463	3108
2008	1862	360	273	2495
2009	1928	379	201	2508
2010	1862	729	176	2767
2011	2170	363	270	2803
2012	1951	338	271	2560
2013	1790	119	253	2162
2014	1949	54	305	2308

* 年度来館者数: 4月～翌年3月の合計

* 2005年度来館者数は2005年7月～2006年3月の合計

* 2009～2012年はセンターが「くらしのフェスタ」の会場となった



日野市環境情報センター設立から現在まで

ゆかりのある方々に寄稿していただきました

日野市環境情報センター センター長 小倉 紀雄

日野市環境情報センター（愛称：かわせみ館）は、市民参画により策定された「日野市環境基本計画」に基づいて2005年7月1日に開設され、2015年7月で10周年を迎えました。日野市環境情報センターを支えていただいた多くの皆様に心より御礼申し上げます。

市民団体などによる会議室の利用や情報交換のために当センターに来館された方々は、開設から2015年3月末日まで延べ24,562人に達しました。

当センターは市民、事業者、学校教育関係者及び行政との協働により運営され、主に次のような事業を行っています。

- (1) さまざまな環境に関する情報の収集・解析および発信
- (2) 環境学習に関する情報の収集・発信および環境学習の支援・実施
- (3) 環境関連の市民団体との連携およびその団体への活動支援

環境情報センター かわせみ館 を広く市民の方々に知っていただくために、かわせみ館ニュースの発行やかわせみ館フェアを開催しました。かわせみ館ニュースは2011年1月から年間4回発行し、かわせみ館に関連する最新の事業を紹介しています。第2回かわせみ館フェアは2015年4月初めに日野市役所内で実施しました。市内でさまざまな環境保全の活動を行っている市民団体の取り組みのパネル展やかわせみ館の事業内容の紹介を行い、多くの市民の方々にかわせみ館を知っていただく機会と市民の方々の交流の場となりました。

環境情報センターのスタッフは雑木林の管理や子どもたちや成人を対象とした環境学習の活動に関与しており、今後もそのような機会を充実し、市民の皆様とともに日野市内の水や緑など自然環境の保全に努めたいと思っています。

日野市環境情報センター 初代センター長 青木 襄児氏

20世紀後半から21世紀にかけて、人類は生活の利便性を飛躍的に向上させた。しかしその代償として、生態系の破壊を招く「地球温暖化」と、最終処理の解決を見いだせないまま「原子力発電の導入」という極めて深刻な二つの問題を引き起こしてしまった。現代に生きる人びとにとっては、後世にこれらの負の遺産を残さぬよう極力これらの解決に尽力するのは当然であろう。

国連は世界全体で悪影響が出てくると予測される気温2度の上昇を抑えるためには、地球全体のCO₂の累積排出量を約3兆トンに抑える必要があるとしている。しかし世界はすでにその3分の2近くを排出していて、このままで排出が続けば、30年以内にこの枠を使い切ってしまうという。CO₂削減のための省エネ技術の発展と、太陽光、風力、水力などの再生可能エネルギーの低廉での利用拡大が必須である。

LED、ハイブリッド自動車、水素自動車など、多くの企業が省エネ技術の進歩に貢献している。わが国では大規模な業務用建築物の新築に際し、国の省エネ基準に適合することを義務づける方向にあるが、このような省エネ設備は将来的に一般家庭でも導入できるものがある。現在でも、家屋の断熱処理や太陽光発電は導入されているが、地中熱ヒートポンプ、電気と熱を同時に作れる家庭用燃料電池、さらには太陽電池で起こした電気でも水素を作って貯蔵し必要なときに再び電気に変える装置など、近い将来一般家庭にも導入が見込まれる新技術も現れてきた。このような技術を当環境情報センターでは企業から資料の提供を受け、多くの市民に紹介してはいかかであろうか。

当センターが計画中の移転先は、黒川清流公園をはじめ多くの緑に囲まれ、立地条件は申し分ない。カワセミの生態、浅川の自然、環境問題に対するボランティア活動などの写真を募集し、常時展示するなど、多くの市民が気軽に出入りできるよう、親しみのもてる雰囲気のある建物ができることを期待している。

日野市環境共生部 部長 中島 政和氏

「かわせみ館」という日野市を象徴するネーミングを持つ環境情報センターは、生活・保健センターの隣、旧三菱銀行日野市役所支店の建屋の中にオープンして早10年、多くの市民の皆様の熱意で策定された環境基本計画における環境情報、環境学習の「拠点」として位置付けられてスタートしたのが、つい先日のように思い出されます。

この間、多くの市民の皆様の環境学習や市民活動の拠点として利活用されてまいりましたが、老朽化が著しく何かと手狭であることなどから現在、新環境情報センターの建設に向けた検討を進めています。

新環境情報センターは、旧多摩平下水処理場跡地にコミュニティ施設と一体となった施設建設を目指し、隣接する東豊田緑地保全地域や黒川清流公園といった恵まれたロケーションの中、ハード面では、太陽熱や地中熱を利活用した再生可能エネルギーを取り入れるなど、省エネ・省資源、自然エネルギーの利活用を検討しております。ソフト面では、これまで環境情報センターで培ってきた様々な事業に加え、身近にある緑と水辺のフィールドを紹介するビジターセンター的な役割や、環境学習の拠点となるよう計画しています。また、地域コミュニティの拠点として、多くの市民の皆様に気軽にご利用いただける施設となるよう、現在基本的な構想を取りまとめているところです。

今年は、第2次日野市環境基本計画の中間検証の年でもあります。そこで、改めて第1次日野市環境基本計画を策定した多くの市民の皆様の熱い思いを呼び起こし、「様々な主体間による双方向の情報収集と提供ができるような、開かれた仕組みを構築することによって、環境情報に関するネットワークを形成し、環境保全活動に寄与する。」とした環境情報センターの原点に立ち返ると共に、小倉センター長が提唱する「ひのエコミュージアム」の拠点として、これまでの取組みの評価や反省を加えながら、新たな一歩を踏み出したいと思います。

新たに誕生する環境情報センターにご期待ください。

日野市環境緑化協会理事長、日野市環境共生部 元部長 萱嶋 信氏

環境基本計画を市民の方々が大勢でつくっているとき、環境問題は、情緒的ではなくデータに基づいて考えなくては、と提案がありました。そのうえで、市民が利用しやすい情報センターが必要と、議論し、練り上げ、計画のなかの「推進体制」に記載されました。

それに基づいて日野市環境情報センターが設置され、かわせみ館と名付けられました。市民の方々の思いが込められています。

設置に当たっては、計画策定にかかわった市民の方々をはじめ、多くの市民の方や、企業の方も参加し、準備会が行われ、事務局となる環境保全課の職員も力をあわせました。国土交通省京浜河川事務所も、環境情報センター設置の動きに関心を持ち、パソコンやLANシステムなどの提供や共同運用などの提案もありました。

場所も、業務サポートチームが雨天時などの屋内作業用に使っていた建物を使用できることとなりました。場所と規模が決まり、準備会は具体的な作業に入りました。サポートチームはしゃれた内装を手作りし、市民からは書籍など、企業からはピーカーなどの実験用具も寄付されました。手作りの表札もできあがりしました。

最初は、不慣れなため、開館時間と勤務時間等との整合がとれなかったりなどのこともありましたが、かかわった方々の熱意でなんとかスムーズにスタートしました。

銀行が使っていた建物だから頑丈なものと思い込んでいたのに、耐震性が劣るらしいとわかって、それだけが気になっていました。新しく建物もできるとのこと、嬉しい限りです。

充実したスタッフのもと、さらに市民に役に立つそして市の行政のよりどころとなる環境情報センターであり続けることを願っています。

開設以来10年間、日野市環境情報センターを支えていただいた皆様からのメッセージ

小野寺 勲さん

ひの・まちの生ごみを考える会

第1次環境基本計画の中間見直しで、その推進体制として、環境情報センターとともに環境市民会議（2005年11月～2011年3月）が設立され、私はその初代の代表や副代表を務めました。会は、環境情報センターに事務局としてサポートしてもらいながら、「ひの環境フォーラム」の開催（3回）やニュースレターの発行（27回）などを行ってきました。環境情報センターは、環境関連の情報や活動ノウハウの宝庫です。そのことを各方面（特に学校関係）にもっとPRし、活用されるようになってほしいと思います。

飯島 利三さん

環境情報センター運営会議議長

自然環境とわたくしたち人間とを対比して見ていきますと、どうしてもわたくしたちの人間活動は自然環境を壊しながら発展とか進歩とか言ってきたように思うのです。今まではこのことについて漠然としたイメージとしてしか描いていなかったのですが、市民環境大学で具体的に数字をもって示されることによって確信を持てるようになりました。これからのわたくしたちの人間活動は、自然環境を破壊しないよう自然環境と調和した活動へとしっかり監視の目を向けていくことが大切だと思います。学ぶことが楽しい、そしてたくさん知識で環境に調和した地域社会を築いていきますよう努力しましょう。

田中 徹さん

市民環境大学OB会

環境情報センター設立10周年おめでとうございます。『学ぶことの楽しさ、現場に出る楽しさ（実践）』のために様々な講座を企画提供して欲しいです。連続講座は人材育成の上でも有効だと思います。日野市にも、また全国的にも市民運動の高まりの中で貴重な自然が守られ、自然を復元した経験が沢山あります。行政、センター、市民の連携がますます必要になっています。沢庵和尚が藩政のために説いた言葉『上中下三字説』は環境問題に取り組む上でも通じると思っています。センターの役割がますます期待されます。

かわせみ館



彦谷 有三さん

環境基本計画推進会議CO2グループ

開設10年、大きな節目を迎えた「かわせみ館」に期待するところは大きいです。ここ2、3年をみますと、かわせみ館ニュースの発行や、かわせみ館フェアの開催など、多くの人を知って貰おうと努力をされていて、いいことだと思っています。本来の使命である環境基本計画の推進に寄与すべく環境情報の収集・提供、環境学習の一層の充実をお願いします。更に踏み込んで環境施策推進のセンターとして、文字通り活動の中心・拠点、核として影響力を発揮して率先垂範、関係部門、関係団体等を叱咤激励してください。

中西 由美子さん

環境基本計画推進会議みどりグループ

早いもので10周年が経過したということですが、これまでと今現在の環境情報センターは、どのような役割を果たしているのでしょうか？そして、これからの10年は、環境情報センターをどのようにしていくのでしょうか。それがはっきりと示しているのでしょうか。これからの情報センターは、是非ともわかりやすいビジョンを皆で議論し、皆に示せるようにしてもらいたいと期待しています。

佐藤 美千代さん

まちの生ごみ活かし隊

日野市の豊かな水（湧水・用水路・河川）と緑（雑木林・田畑・風景）は古来より農家の方々が維持管理されてきた宝物です。その環境を少しでも残したいと思ったとき、私達市民が学ばなければならないことは、日野の環境・歴史・産業・都市計画・まちづくりの知識、市の条例、都や国の法律、地球規模での最新情報等多岐に亘ります。今後センターの建替えが予定されているそうですが、そんな様々な情報を集約し市民に分かりやすく発信し、多くの市民が気軽に活用できる施設になることを期待しています。

酒井 烈さん

環境基本計画推進会議水グループ

市民参画・協働での環境基本計画の推進体制を目指し、日野市環境市民会議の設立と同時に計画を推進する拠点として環境情報センターが開設され、両者でPDCAサイクルの確立にあたってきましたが、P（PLAN）→D（DO）での予算に裏づけられた実施計画が不明の推進管理で、DとPとの関係がわからないこともおき、A（ACT）がだせないC（CHECK）となってしまったように思われます。

環境市民会議は、P→Dからの市民参画・協働を目指し、施策担当課との各分野別グループ会議を重視した、環境基本計画推進会議となりました。環境情報センターも計画推進でのCAの機能強化、そして環境白書での環境基本計画PDCA全過程、特にAを重視した報告を期待します。

中島 孝さん

ひの炭やきクラブ

環境と言えば一般に人間やその他の生物を取り巻いている自然環境の様子を指すでしょうが、仕事環境・生活環境・教育環境等など枚挙に暇がありません。孟母三遷で云われているように、次世代を託す子供・遊び・家庭環境。だいたい10歳位迄に過ごした環境により、その人の性格が創られると言う、その役割の一端を「かわせみ館」が出前教室等で担ってきました。2015年に本設計、2017年開館の予定で「新かわせみ館」が黒川清流公園の西側に隣接して生まれ変わります。下水処理場跡地、数年前までは狸が棲んでいて「歩いて坂を下っていて、ふと下を見たとき小生と目があってしばらく見つめあった」ことを思い出します。立地・交通の環境に恵まれて建設される新環境情報センターのこれからの10年を見守っていききたい。